

## 韓国近代文学の祖・李光洙

新潟県立大学名誉教授 波田野節子

李光洙(1892～1950?)の略歴

西暦(数え年)	
1892年(1歳)	2月に平安北道・定州郡で生まれる
1894年(3歳)	7月、日清戦争(～1895)
1896年(5歳)	ハングルと千字文を習う
1897年(6歳)	上の妹が生まれる 10月、国号が大韓帝国になる
1902年(11歳)	8月、父母がコレラで急逝。親戚の家を転々とする半放浪生活を送る
1903年(12歳)	東学教徒の伝令として働く
1904年(13歳)	2月、日露戦争が始まる(～1905)
1905年(14歳)	東学の留学生として来日。東海義塾に通って試験準備
1906年(15歳)	4月、神田三崎町の大成中学校に入学するが、夏に学費がとぎれて帰国
1907年(16歳)	皇室留学生として再来日。9月、明治学院中学3年に編入学
1908年(17歳)	4月、4年に進級。山崎俊夫と同級生になる
1909年(18歳)	12月、『白金学報』に「愛か」が掲載される
1910年(19歳)	多くの初期創作。秘密雑誌『新韓自由鐘』第3号発行。中学を卒業して五山学校に赴任。8月、日韓併合
1911年(20歳)	1月、105人事件で五山学校校主が逮捕される。学校運営が教会の手に移る
1912年(21歳)	校務に専念するが教会と対立
1913年(22歳)	2月新文館より『アンクルトム』抄訳を出す。学校で排斥運動がおき、11月大陸放浪の旅に
1914年(23歳)	上海からウラジオストックを旅する。チタに滞在中、ロシアが第一次大戦に参戦して帰国
1915年(24歳)	8月、長男誕生。9月早稲田大学予科入学
1916年(25歳)	4月、早稲田大学入学。9月より『毎日申報』にたくさんの論説を発表して脚光を浴びる
1917年(26歳)	結核発病。1月『無情』。7月『五道踏破旅行』(日・韓)。10月『開拓者』
1918年(27歳)	10月、許英肅と北京に駆け落ち 11月第一次大戦終結
1919年(28歳)	東京で2・8独立宣言起草。上海亡命。臨時政府樹立に参加。安昌浩の興土団思想を知る
1920年(29歳)	興土団に入団
1921年(30歳)	4月、帰国して逮捕されるが不起訴。許英肅と再婚
1922年(31歳)	2月、修養同盟会を立ち上げる。5月、「民族改造論」発表
1923年(32歳)	5月、東亜日報入社。9月、関東大震災
1924年(33歳)	このころ日本訪問。10月、「朝鮮文壇」主宰。『再生』連載が大ヒット
1925年(34歳)	3月、脊椎カリエスで手術を受ける
1926年(35歳)	1月、修養同友会となる。6月に入院。11月、東亜日報の編集長に就任

1927年 (36歳)	1月、結核再発。 5月、次男鳳根誕生
1928年 (37歳)	7月、病勢回復
1929年 (38歳)	5月、腎臓結核で大手術。7月、修養同友会を同友会と改称。9月、次男の栄根が生まれる
1931年 (40歳)	9月、満州事変
1932年 (41歳)	満州建国。4月に安昌浩が逮捕される。5月、『改造』の山本実彦と会食。9月、東京に滞在して日本文人と交流する。安昌浩に懲役4年の判決
1933年 (42歳)	8月に東亜日報を辞任して朝鮮日報副社長に就任。9月、長女廷蘭が生まれる
1934年 (43歳)	2月、鳳根が敗血病で急死する。朝鮮日報を辞任し、家を立てて隠遁
1935年 (44歳)	1月、次女廷華が生まれる。年末、研修に行った妻と子供に会いに日本へ(～1月)
1936年 (45歳)	5～6月、日本に滞在。『改造』に「萬爺の死」を発表する
1937年 (46歳)	6月、同友会事件。7月、日中戦争。12月、病保釈
1938年 (47歳)	3月、安昌浩死亡。8月、裁判が始まる。11月3日、思想転向会議を招集、会員らと裁判所に思想転向申述書を提出して朝鮮神宮を参拝する
1939年 (48歳)	9月、第2次世界大戦。12月、同友会事件で全員無罪判決を受けるが、検事側が即日控訴
1940年 (49歳)	2月、香山光郎と創氏改名。同日、朝鮮芸術賞を受賞。8月、朝鮮語新聞が廃刊。同友会事件で全員有罪判決を受けるが上告。この年、モダン日本社から翻訳4冊が出る
1941年 (50歳)	11月7日、同友会事件で全員無罪の判決。12月8日、太平洋戦争
1942年 (51歳)	11月、東京で第1回大東亜文学者大会に参加
1943年 (52歳)	11月、半島出身学生に志願を勧めるために東京へ
1944年 (53歳)	隠遁。11月、南京で第3回大東亜文学者大会
1945年 (54歳)	8月15日、日本敗戦を隠遁先で迎える
1947年 (56歳)	『島山安昌浩』『私・少年篇』
1948年 (57歳)	隨筆集『石枕』『私・二十歳の峠』『我が告白』
1949年 (58歳)	反民族行為処罰法により収監、病保釈、不起訴
1950年 (59歳)	6月に朝鮮戦争勃発。平壤に強制移送されたあとの消息は不明
1991年	米国在住の次男李栄根が北朝鮮に行き、1950年秋に肺結核と凍傷のため死亡と聞かされる
2009年	盧武鉉政権下、日帝強占下反民族行為真相糾明に関する特別法（親日反民族特別法）により、親日反民族行為真相糾明委員会が決定した親日反民族行為者301人の1人として認定される